

くどう さとし  
工藤 智司

基幹労連・事務局長

## 「軸が大切」

人間のからだには背骨という軸がある。この軸を中心として頭が上に座り、手や足が付いている。子供の頃はよく「背筋を伸ばしなさい」と親に怒られたものだし、背筋のピンと伸びている人を見ると気持ちが良い。たまに行うヘボゴルフでも体の軸がぶれると右や左に大きく球が曲がっていく。最近はこの軸を意識することが多い。

「日本は資源が少ない。だからものを輸入して加工し輸出していくことが発展のカギになる。しっかり勉強しなさい」これは中学校の時、恩師に言われた話です。天然資源の乏しい我が国は、原材料を輸入し製品に付加価値を付け海外に輸出することが生命線だという教えです。私も我が国の付加価値を生み出す生命線である幅広い意味での製造業の発展は直接、国の発展につながる軸のひとつであると確信しています。

生産・製造現場においては日夜、額に汗し活動を行っています。さらに日本のものづくり企業は国内にとどまらず経済がグローバル

化する中、世界中で、今この時間もどこかで活躍しています。また、日本人はコスト改善に対する意識も非常に高く、限りの無い改善活動を行っています。これはまさに乾いたぞうきんを絞るような活動です。その結果、繊細で高品質な我が国の製品はグローバルな市場環境の中で高い評価を得ています。

このような中、今、TPPへの参加可否、地球温暖化関連に関するさまざまな税制に関する議論など極めて重要な案件が議論されています。リーマン以降、疲弊したものづくり産業はようやく復活してきました。ここでさまざまな税制がさらに実行されるとこれまで行ってきたコスト削減努力が一気に吹っ飛びます。また、国際的な枠組みに取り残されると産業によっては雇用に対し重大な影響をおよぼすところも出てきます。

経済がますますグローバル化する中、あらゆる視点で考えて、現時点でものづくり産業の力を削ぐ事を行ってはならないと考えます。リーマンショック以降市場環境は完全に先進



国から新興国に変わりました。新興国の発展はそれ自体喜ばしい事ですが、自国の産業保護のための政策が、国際間の取引・競争の中でアンフェアな状況になってはならないと考えています。

製造業がこれまで以上に過酷な条件となった場合、間違いなく海外への移転が加速されます。これがどのような結果になるかは目に見えています。産業の空洞化は間違いなく今以上の雇用環境の悪化を招き、結果として犯罪発生率が上がり、出生率の低下と高齢化社会のさらなる進展につながると考えます。

我々は、ものづくり産業の復権こそが日本経済を復活へ導くとの観点から日夜活動を行っています。このような点を鑑み昨今の当面する課題は以下の2点だと思えます。

「技術立国・ものづくり立国たる教育体制の整備」と「この国で製造業が存在しうるための体制整備」です。

「技術立国・ものづくり立国たる教育体制

の整備」に関しては、将来にわたり我が国が科学技術分野で最先端たり得る人材育成や、科学や理科の楽しさを伝える工夫、優秀な人材が工学部を目指す雰囲気作り、広い意味で「ものづくり」を奨励する文化、額に汗して地道に働くことの必要性などです。

2点目の「この国で製造業が存在しうるための体制整備」に関しては、もはや新興国に対してはあらゆる領域で公労使による総力戦に突入しているという認識を共有した上でのグローバルな競争の中での対策です。これは天然資源の獲得・受注競争の激化・イコールフットリングなどがキーワードです。

軸をどこに置くか。これはあらゆる場面で必要になると思います。「資源立国」「観光立国」「金融立国」など、何を持ってこの国の軸とするか？軸は1本か2本か？激変の嵐の大海原を我々も乗り越えていかなければなりません。私も今年一年、労働運動の中で常に「友愛と信義」という揺るぎない軸を掲げ活動していきたいと思えます。